

KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



監筋無底抄
男七

特別
12
1077
19





利
1077
1819



松風

卅歲

丙午

東院造畢苑散里移給事

西對子上右

明石上可右上洛中

明石上欣理大并山左事

雄龍負是也

明石上并母上身具娘若上洛右

林源氏表出澗滅古對西石右

後水寺の被定例時儀也

清堂撰栖霞堂也

桂殿道途事

小倉将也

五日三日還西大井家也

自内裏有清書使也

二条院御君君夏河於山也

明石姫君三歳也

松風 以奇並詞為卷名 (花并秘)

^奇身とくそひりくまふ山里也

よにうままうせう也

い奇れおの詞よれいしみ感

とくさあしと大御いしうま

うこままし八人うままうまかたり

地さびてまうひくは去風うま

かくまういあひりり物

音ふてりあうくぬたもあ

多しき 奇 身をとりて

元源母歳の事、繪合同年に

秘 源母の林色より多り、繪合

も同年に去の事、井日 武抄是ハ

明石ノ姫君ノ事、を母よひ家の事

よひ、し、河家、河よりして源母

ヤトハ勅、源母ハ父、三月十日

生、是、源母、源母ハ父、

源母ハ父、源母ハ父、

花 した女、母、六、源院ハ、母、母、

源母ハ父、源母ハ父、

源母ハ父、源母ハ父、

源母ハ父、源母ハ父、

源母ハ父、源母ハ父、

源母ハ父、源母ハ父、

源母ハ父、源母ハ父、

源母ハ父、源母ハ父、

秘 二、源院、の、事、源院、ハ、源院、ハ、

造所より北なり并

武抄二条院ヨリ 東に河より院

河にぬいよる後かきとくま

西對 渡殿

是ハ二条ノ院ノ東ノ院ノ西ノ院

これら家けしノ後よりと

武抄に院ニ渡殿と云造てこれ

村一して西東に村成ハ作の物少

村ハ内ノ方也

後二河もひりか

政事家司

政事も家司と云りけし事

海らあし人之政事家司か

あふ人の世れ下く日

世に物事

ひんりれぬいを河りれぬ

秘

明る上成すはせりし事也

源乃由心あてりし

小光のいふはひり

秘

空轉りしれりありし

松ありしはくはせりし事也

法句のいふくはせりし事也

礼と各別は後より申す

東射のいふ事也

色とくはせりし事也

ひりくはせりし事也

しりくはせりし事也

去ん後いふ事也

私河よりやうありし事也

何

復後いふ事也

多き仁なりし事也

ゆきけりし事也

鳥妻トコロシ奔別シテ鳥妻註曰聊ハ同也

妻し言、再や以礼見問、則、焉
更歎辭、妾し言、接や言得接見
於君子、不得与、夫歎、辭せ、り、驕
以礼、運、也、棄、媒、少、之、野、合、也、之
は、是、ハ、皆、上、と、れ、妾、し、得、之、の、復、也、よ
后とふかせ

花
河海、院、は、ち、ま、り、皆、上、ハ、り、は、り
二条院の西軒、は、復、り、り、也、院、ノ
復、也、は、源、氏、の、ホ、ヤ、と、も、亦、は、心、は、

て、ま、也、ハ、ハ、ぬ、け、は、め、と、も、は、
や、り、何、り、と、い、り、之、也、

秘
花鳥、り、河海、の、院、と、あ、や、り、と、も、
り、り、ま、も、れ、院、も、河海、院、一、院、也、
こ、ち、あ、ハ、二、条、院、也、り、も、復、也、ハ、
皆、上、と、は、院、と、は、は、は、か、之、柳、心、は、り、
み、あり

武州、河、院、は、也、
中、去、源、ノ、皆、上、ハ、本、妻、ハ、ハ、り、と、ま、也、

六条院めくも寝ぬ女三美いよ
多しり世よいつ事遠恨しき事
お病つこれとさうさくあえ

わたりまゆすこあや

二条ノ院ノ東ノ院へさうけつ時の
源ノ水きみあえ

ゆれくこりゆれさうひ

あまの源れすこあまの女いあひす

人ほりあふれさうひのきぬあひい

さうかきあひさうきんさうり

あまの源れすこあまの女いあひす

明石よの源れりあまの女いあひす

半成り信りあまの女いあひす

女ハあけわさあひのあひ

明石れかよを早下し

こよれりあひさうり

あまの源れすこあまの女いあひす

秘

源のうらひまふしめぬといふその
因六条のれ是あり成いそ
或抄中人とれよ人と毎たきそ
かさて又うらとちくろのうらま
まげハ海してうけあつぬ身ま
さしあまうらうらうらと
これわろ君のれせりてあせふ
河内奇後押
うら^く概ととむとくれぬは去れ親の
わけてとせけりぬうらなふ

不乃は奇

ふらうらまふひらうらうらうら
まめく人うらま
明ふと重くのうらまも源ノ村
西のまれのうらまく人うらな
ふらうのうらまうらうらうら
又うらとてかぶあめて
娘高のりをとよんやうらうら
のまひてのうらまうらうら

してあせしそひ又く付田舎ゆく
あしおほり人半もいづくと高しよ
娘若乃すをそひまうと
まじすめとえうみうむと
明石れは源一乃あふひ
若乃らとまふふとくりし
明石ノ又母とけ命をとりりし
そひまうてまふつては
むりけり若れは若ら申はくは文

何 節中書王兼明幸一號号小倉

文

免表賦云余龜山ト下御下出布
辞官休身欲終老於所居草堂
漸成爲執政者ラシキ枉被論シテ多若昏
后設無知于國
醍醐清子中務卿色明親王山在
大井河畔号雄虎及は親王明
石上ノ母若ノ親又とくり

秘

明石屋、禮又中務文之通明親良
擬してくゝ弁曰

武抄の祝云前中書王亮未表賦の作
りてはよトキらハ有ノ名也唐ノ名也

らうト始まみ

順一より百

あひつゝ人を

前中書王の所末ト姓ト人あり
よひよりてかゝるぬ

高守を呼ぶゆゑ明石人とい

ぬなり

世中流今いし

是より高守りめ村していし

秘

明石のよあはし

私是より明石とれ母の高守めり

心通

秘ノ義不接

かたすゝる

明石ノ浦のよそ

未だ世々ひまをぬ

明石と源氏のみなちのひまをぬ
のいてささいみし

ふらふらなはゆいんち

重くあし立ちんちとらし村の
かこをりあう村のよそをさし
てう源乃ゆえくもつゆをんよ
乞もらぬや

まのうらまうし

心のうちけりまうし

ぬあまいあまのむすこ

大井れまうし先程中流の地もま
ゆあつち物にあまわさく

上流 田舎られをせわく

いふく

後秘 派ノ料ハ多クノゆえに
まのま

うきれど 刑のこころ

あつり 兵ごうしゆ

秘 翁守れとま

らうすぬ人と物しゆす

九 中納言伊勢の重明親王の男

我ましり後お清しして後命

とせ

あやしきやがよ 河菫

私 河川のやがよありてし 河判

まもやう 河石舎 新念

これ去のしゆりららの大まれば

せまよ

河石舎 河氏

秘 源乃漢誠ノ水堂ノ事

私 繪合巻れまよらうしひおきりゆ

堂ハ傳履寺こまひあすし一ゆりな

大光寺れもに河よりてし下みえ

ゆり 柳鹿親ハた石融公ノ山彦

後小治政の如く樓殿を修し之を今清
涼寺ノとす一わが阿彌陀堂ニ此
清涼寺ハ今西ノわが寺ニ小治政
大正府記永延元年八月十八日法橋之
位トモ齋イハ申請云以愛アヒ子コ山ヤマ五イ臺ト
大正清涼寺ニ建立一伽藍置白旃檀
迦尊像一ト付大迦ト齋イハ入唐一
てとて一トおまけト佛ト之ト此清涼寺ト持
以上名ハ此トありありありあり

貞觀七年ノ國史ヲみんより又李
王記天慶ノ以栖霞寺大迦堂と云
毎せり齋イハ花ハ一ト竹タケありあり
七ト大ト迦ト堂トハ今ト一トいトとトありあり
事ノ西冷清涼寺ト一トありあり
ありありト齋イハ花ハ別ト一ト堂ト以
多々之傳ト大ト迦トを安置ト一トあり
あり

いさつら

トケケ
最良積

ナカキ
噪

ありて人おむけけりいとなし

源く家礼の交ぬる人へ
けけり

志のうらぬかいらは

秘
志のうらぬかいらは

うらぬかいらは

めしむいそや

おめうらぬかいらは

秘
これより左公ノ用ノ源ノ世禮ノ

さひらぬ

いそぎしとらふ事ありて

むねさふ

何
いそぎしとらふ事ありて

或は肩をやすむ家ととらふ世禮

肩をやすむ家ととらふ世禮

戴高祖と云けり

松云は美なるうらうらとほと出にほり
うらうらとほと出にほり
うらうらとほと出にほり

よのぼるうらうらとほと出にほり

うらうらとほと出にほり
うらうらとほと出にほり

又ありうらうらとほと出にほり
すみ事とほと出にほり
右にほと出にほり

かづりなふなうらうらとほと出にほり

武抄うらうらとほと出にほり
うらうらとほと出にほり

はらうの田はうらうらとほと出にほり

武州田鼻は下のうらうらとほと出にほり
こふれうらうらとほと出にほり

ミシブノタイフト云旅ハ多とミシブノ
フトフト心うらうらとほと出にほり

見 道明親王と男伴侍中納言二男伴侍

從四位左大臣子左大臣部大捕と道明
親とハ文也世にすれ多之西人也此
人こそ世に後門よりあふ系
文をり付くりてさるるおし中納言
日伴清平ゆりてハこれお物言
ゆりてすうまにれハハハハハハ
ととととととととととととととと
ととととととととととととととと
ありてハハハハハハハハハハハハハハ

付まり菟ノ字ハ免イノ字ハ免イなり
かれハハハハハハハハハハハハハハ
うハハハハハハハハハハハハハハハ
且君キミ臣ミコト臣ミコト臣ミコト臣ミコト臣ミコト
みこそ世にすしまはハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

私と道明親とハ延喜ノ由子書
去王ト申ス具平親と天曆ノ由子書

書主トリス世ニスリシタル文人^{ナリ}
久^クハ右介^ノ中^ノ勢^ノ威^ノを^レ觀^ル
ねんくお^ノ子^ノま^ノと^レは^ニ親^クを^レお^ノか^ス
ゆ^キ

^秘お中^ノ去^レ王^ノの^レ男^ノ伴^ノ行^ノの^レ事^ヲも^レ秘^シ
へ^ノり^ノ并^ニ日^ヲ

^秘ゆ^キつ^テ物^ヲれ^トを^レま^ノり^テ
う^レり^ヲを^レい^ハし^テり^ノ領^ノと^レり^ノ
を^レい^ハす

う^レり^ノの^レこ^ノの^レま^ノ

^秘 ^何 ^生

^秘上^ノ路^ノあり^テは^レ田^ノを^レま^ノり^テ
う^レり^ノを^レい^ハし^テり^ノあ^ノや^ノま^ノ

ひ^キを^レら^マは^レお^ノり^ノを^レい^ハす

^秘

つ^マに^レを^レ畧^スと^レり^ノ并^ニ日^ヲ

^何

強^クつ^マに^レを^レ畧^スと^レり^ノあ^ノあ^ノり^ノ清^ク
少^ク納^メ枕^ノ子^ノを^レい^ハし^テり^ノあ^ノあ^ノり^ノ

こゝろのたゞしきふしはあり

くらゐきこひの

秘

くらげのひねりあり

事

くらげのひねり

何

梅をくらげのふしを二流くらと

くらげのひねりあり

くらげのひねりあり

秘

くらげのひねり

くらげのひねりあり

春ハ文書ノ事

因春ハこれト訓

秘

春ハ文書ノ物ノ事ハ心

なるべし

大方のきこひとくま

源れり

秘

源乃れくらげのひねりあり

くらげのひねり

くらげのひねりあり

まじりて月石を云源の所はよりとま
ひまじりてくひひては大井れ
翁の所理まじりてまじりて

ちりまじりてくひひて

秘

ちりまじりてくひひてくひひて
ちりまじりてくひひてくひひて
くひひてくひひて

のちりまじりてくひひて

閉るれくひひてくひひて

何う成源ノ不妻よおれとせえれ
一う又ハわが君のくひひて
くひひてくひひてくひひて
くひひてくひひてくひひて

此よりくひひてくひひて

大井の表

秘
は夜ノ出くみ用くひひて
閉るれくひひてくひひて

うーん

人へまーらへん

^秘源へん

明石の心中を源へ寄るは
其のくさりのおとせり
東のうらみ家からやうな用
しやあえと源へん

かへりあり

^秘人あへん

あへん

あへん

^秘惟えをつりてみまへ

あへん

^秘大井川の邊に建つてあつた

有名うす

し

松林えれ

あへん

秘

源ノ公之明皇ノ御子也其母曰
橘姫ノ御女也

ルシクハハハハハハハハハハハ

河内ノ公トシテ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハ

秘

大之ヲハハハハハハハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

河

大之ヲハハハハハハハハハハハハハハハハ

旧記曰正子内親王

淳和后 嵯峨皇女

養和

七年十二月日入道

依淳和崩

貞觀十

八年二月廿六日以嵯峨院為大之奉

淳和院大后令旨請嵯峨院為大之

寺之由奏伏見菅原公集賢和年

二月廿三日傳記云召在太尺於前定

諸寺別而奏後守信朝以為大之

別而

秘

大之ヲハハハハハハハハハハハハハハハハ

天皇昔用放し地

多きいしれ心之れとたす

花 瀬の泉のいありし大定も

も瀬のあり栖霞寺も河原

よりし心之いありし

いありしいけぬ

秘

泉ありし大定も

再日

河

瀬の事

古人云云田名取し在大覺寺南

寺了王記延喜八年云云於栖霞寺

七月廿日

清和中七親王園名設隣今大納

言乃入礼大寺於瀬の小新堂院南

院平清大納之乃入礼寺又於瀬原

坂進の飯 空明抄云田名取全

無所及只此寺此の心之れと

いありしい今昔古人いし今

人亦小推事ありしいあり泉

ぬしと云ふは大覚と此の龍女とを以て
とて有りしと云ふは之の待し龍女龍泉
曝泉と云ふは之の無著夫と云ふは龍泉寺
龍古寺と云ふは四乗大納之成集
云は龍泉の大覚寺と云ふは之を以てこれ
うまの寺と云ふは之の待し龍女と云ふは
龍女と云ふは之を以て久しく成る事と
名し之を成る事と云ふは之の待し龍女と
後拾遺集云

ぬしと云ふは
新深草

あまふあり今ふしと云ふは
はせれと云ふは人の女と云ふは
西行集云大覚と云ふは龍女と云ふは
へらと云ふは之の成る事と云ふは
ゆりりて新深草今ふしと云ふは
らみきしと云ふは之の成る事と云ふは
いふふと云ふは之の成る事と云ふは
世のうれと云ふは之の成る事と云ふは

小倉山壁高蒼色

大覚寺泉落枕也

鳥也

東北院れいせいのかいせき

みゆきふ せき

くちみまはうしつわがふせくち
かしく海ふふふれき

作高こいきあり泳龍也

上三ハ川つ了ふ

元ハ大井の所しれ

秘

小倉宮ノ所前ノ明石及ノ夜とけ

いしうしうふふ 寝殿

何れいしうしとあ

何のうせとけふて

造師もあく志行しむり

かくしと何のうしと若方

れたしうし

いしうしうし

大井の家れいしうし

これぞ源氏

^秘 惟えよみそはるく後ハ源乃の傍より
いひつゝをま

志う美人くいしうまのひ

^秘 せうとくうま

^花 明るよれせうく源氏れまの世

いれまかきまきうりくいし

れうまかして今ハとま

あまうり明るよの世

公けうくまらりく

いれまうりまはるくま

まひまきまはるく

あまうりぬま

^花 源氏まの世ゆりまか

源山くま

^秘 源れらうりまはるく

まきまはるく

風吹く物まひまはるく

武抄の祝詞

若くもあらもかたはれひのめく

消らふれ又母れ移るひれまゝめくは

まし又今ハれ一もせ

あひんくすくえんよせされ

めろと又ハ姫君ののりさよ入るん

ハれくすくえんよせされ

ゆゝハわ^若君をハみくすくえんよせされ

姫君事

秘

おれれらめてまろくんとて

とて

け河のりハくろまらけハんて

ゆゝくすくえんよせされ

とて

くすくえんよせされ

入るん母君ハ日君共ハ

秘

明るるハくすくえんよせされ

めと入道ハくすくえんよせされ

はむてのあつてはしうらけいりいふに
それゆりてうらあやとゆし

何 入るよ明るる石田宿にふたをぬき
あまのあししうらあやとゆし
しりてらあまのあししうらあやとゆし

あはれいふうらあや

秘 うらあやとゆしと別はけし

物成し

あふまうれまうらあやとゆし

何 みあまのあししうらあやとゆし

あはれいふうらあや

花 んふれあししうらあやとゆし

あれあししうらあやとゆし

れうあししうらあやとゆし

ととあししうらあやとゆし

あまのあししうらあやとゆし

松玄河井列方とゆし

花ノ列方とゆし

もてまふみふしうはふ

秘 明石入道幸一

入道一してまうれたぬの成り成
りり

心をい

け入道普通うの心をい成り

又まうるにまうしうの世成り成り
まみうかあま

秘 けすしうまうまぬ身と洗へし

まひしうまうまぬ身と洗へし

しうまうまぬ身と洗へし

しうまうまぬ身と洗へし

て身と洗へし

まひしうまうまぬ身と洗へし

あまうまうまぬ身と洗へし

秘 けすしうまうまぬ身と洗へし

しうまうまぬ身と洗へし

あまうまうまぬ身と洗へし

是よりして居るべし

わづらひ人のよせしむらひ

秘

うれ人のいのかみはうら

事柄れりのし又れれあま

いささし人れれあま

色事成えんていせうひつ

うれいふい

見とてくればはぬのい

れりうみくも人れれあ

うこてれ西向東氣れハ

よすふはまうしと神の

れりうくういおとり

とさあ

うれ目し何れ

上流のれれ

海のいそみいなるい

咽るい

入道まい

常此後夜のたふひりもあれ
こきてまみりやあけり八夜ゆき後
夜と何進八夜ゆきとけりれま
たふひりゆき

おこなひ望みや

ツハしスヨム

しつす終と

門出か行ハ流とく一後公の物
とや

わ君ハいともく

明石の娘ま

ふひりきん玉の

河夜ま玉

何 史記の尚有徑すし珠照車前後

十二条 松奥入 戦いゆき

楚王片清後蛇ノ高ク念タシニ

蛇七寸ノ玉ヲ含テ夜来テ恩ヲ

報シテリ清後ハ玉ノ得テ楚王

献ス 夜中常有光明故名夜
光玉ヨシ

奥入ニハ千和ニ玉ト何リ不妻也
楚王有一玉名夜光昔楚臣潜
假山行テ牧牛ヲ飼フ小崗一地ヲ
打傷テ血流テ沙中ニ伏コト余
已欲絶潜假是夜ヲ扶取テの
中ニ向テ洗テ神菜ヲ水中ニ入テ
活ル更ヲ得テ後ニ彼地水中ニ

入テ亡ス其地ハ是海龍王ノ子也
後ニ七寸ノ玉ヲ含テ夜来向テ
潜假ニ与ヘトス潜假ノ庭ノ中ニ
忽ニ光ルんヲ見ルトモ之ヲ賊余
テ失テ以テ入テ照ストテモ一リ潜假
而鈕ヲ取テ門ニ向テ立リ動ク一テ
トモ賊不見門ヲ開テ見ニト地ノ
子玉ヲ含テテノ外ニ立リ潜假同云
何者ヲ答云我ハ是海龍ノ子也妻又

蛇ト成テ草中ニ遊キ時ニ牛飼ノ
小兒取リ傷命正欲死ニヨリ而先
生命ヲ扶テ神業ヲツケテイリル
爰リ得テ故ニ玉ヲ以テ先生ノ
恩徳ヲ報セトスト云語後玉ヲ得テ
王ニ奉ル王玉ヲ殿上ニ置リ夜中ニ
帝ニ克明アリ故名夜光玉
人ト云クモリクニクニ
秘入方成ル

人ト云クニクニ

名アリト云テ所ルナク
ま人ト云クニクニ
由テのクニクニ
うズクニクニ
とハクニクニ
ゆズクニクニ
ぬハクニクニ
秘
うラビクニクニ

同多くぬハをれ海とハえ堪也せあよ
一ハ門出ふまハかこくこハハハハハ
之とこれぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
甲ヤハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハ

と只今引よりきし事ハ海よりし
若し方角をともさるぬ事ハ
何れハ約ふと之れ鳥銃ハ
てせえんれと

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

さらら

い

か

秘 源ノ

幸成ぬのこなり家と武源ハ
とまると非高むまのりま
かよよとかりうといふ
てしうかハ入道原より國の
かきくさうハく世成さ
ぬふと母君ノ身ハ引く
ぬれ

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘
秘 國の子よなりと世成さ
いハ中將と解して身と

西のこけまノ関りも又の石表を
あこけをせしり

れうこ 明るよき

いそて又あひらんしはれりてうらめ
まら世はあめのゆん

秘 ころせよ又あひらんしはれりし
まらまはし

私は新いりて又あひらんしはれりし
まらまはし

いそくけくまら新し

とらりまめし 秘又をいそあひゆん
明る入道を送りまらしはれり

あし

けのるハニ夜都一ちんまら
又明るよめららん事しれんあ
事かまはくし

かこくまらまらえはれり

ころくまはまらしハ門出

家それあり又二ふひ初のこゝを
へとのむしんもをよりくもく
道まてのそりもきぬ

ゆすくに道乃ぬ

入るのを中し

世中をすてくうりに

^秘けつ下入るの間し中將をすて搦
テのぬきぬくゆかぬも改して
ウ成うつてゆかりありまひ

ゆるをとしぬゆし

れ

これよりハ南石入るノ女こりゆか
こく我身世代さひをすてうり
搦テ身ふぬかすゆか成世
もぬく女まわりりりすをまひ
こりぬくぬきぬく初人のあんま
ゆきぬくもあふまぬれきあふ
ぬくひぬくハ親友長のある
うりし事すたりひて世代をんま

これしてしそひゆりーしそひ
うきぬ事しそゆりてささふりふ
がくしそゆりゆき

ゆりし都しゆりて

秘

上流ししてふふ文紙きしゆきしゆ
を口信ゆひして事夜せしし

常れゆゆゆゆゆゆゆゆ

秘

又ちたふふふふふふ

何

孝経曰詩曰夙興夜寐亡忝余所生

注曰當夙夜寐進作修業以無忝辱

其ハ又母

私げましの河はれこゆりしそを以

りあてししゆ中將を辞た文紙ゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

中將より立身ししゆを官なる位

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆきゆりてゆふれ利ゆゆゆゆ

はるをいふ

やそ世成とてつらとくありたりと

何引ありり畧

私二交由多とせすてと教

多う成さてはけ根とさひりて許

将をも解して交紙とぬつん

くし人のサひひりありとせ

うみうたつ事く

秘其時いらくさひりありとさひ

私さくことハ教一身のさりて紙を

取ふノ仕紙とさくはまともぬ紙

中子つ事くはらきと紙すたわら

一紙と

若れやうく

秘明る上ノ木とかひりてとんくハ部

何の紙へよまけくをとせと紙

はあ(こ)物成とさひりてと

あし事とくく(こ)いふと

氣

有るをたれたしあふ多成るをわたり
何れせん入道の心やわりの路と
よふ心ゆえ心りやしい又子をなるとり
うふの路の心と并日

何

富貴不敏在御如衣錦夜行
朱買臣傳三行行入奥入

安くけん尚不叶可勤

私我弁おふし之由の中にて

仏神成多れし

秘

任長おとよふれしをりきし

私佛の六時のけしめよと

と心とくさくうらりするり

响石まよあわ

さしよりくしてうけしふまを

秘

源ノ心事

みよそまうりうめしと申し身成り成

秘

行まひくしと又物さひくしゆ

わら若のうりてわり

姫君の出来の宿りごとと家宿嫁
ゆりごとと

ちりりしふたぢしりぬ

は姫君の幸ゆへ源と唄ふよと
して宿嫁ありしふれり
ちりりしふたぢしりぬ

んごそまろしりし

道いんごそまろしりし
りのもろしりし
世代とて

身がれいかに
とろよと

君多世ハ世代

^如場多れ幸代
春日

唄ふとと姫君とや

ちりりかふ山りり

入道の身を早トメ

天子は一人の
しりりしり
一時

九

地獄餓鬼畜生を三途といふ假性を
かくハ四執と云人天成りてハ實を
云三途ハ三惡道也

何

天人墮三途也

勅文天の上のふらして由三途也といふ
業ハ其業前後するを故人の由成と
途と出しく天に生するにあらずんば
九の名の云々ハ徳者れ何れ成三
の云々られ一すし之由也天より

秘

よりて三途ハ墮するといふ今の
統のわがれ不便なる天に生え
三途ハ墮する也

河海今業をかくて志ふは一日す
具のわりされしけ文成り人をささく
みかある不妻も生れぬと云々
欲退財ノ文ハ今よりいふ也
よしふし今終りのむかへ天に

むふゆしれゆめく我心ハけ若何と
正法念經云天上欲退時心生大苦惱
地獄諸苦毒十有不及一又經云罪報
若盡還墮三途

事

天人の有りはけあるし其事も亦
之(由)事有りをれ多し

私事然に正法念經の文を今別
キウノ想ノ深キヲフるも其(由)文を
云ナラハセリ入道ノ公ヌナノ別也

事

右如し出入たる事有り

いぢらつておしこいあしめすしと

秘

け下はなれ衣はあやひまほをさしと

初ノゆふ中あり不用し其のぬいす

詞若芽巻く何り言流るのふりて

一略し尋日

ゆめしうましり

何

世中まゆめうれのさしこれゆ

りしいれふ人のこれゆあ

うらまれ世とをふむ

娘君のゆきハれさひをねすロツシ六時の

はとめのうらあといぢりません

うらひうむ入道のまゆ

水車ハ何まこけをむせ

源ノ世ひまなこく

かえはくまけん

車しよゆまむせんしんせむ

も人教何まこあまへか

ふりしあたまいせむ

赤とせ人

原より赤せ人よゆりうり人

あー

夕の何よ子船デわー

夜ノ時ハ海みづにみりり何とて

あせあせ

ひり人よ何とていひまきん浦に翔音

かのくくと何とての翔音は

りよおー

秘

一着の巾着一何とてこれか

ひま

舟かのかとて舟ノて

秘

清くれりあそそとて

洞ノ中にあそまかなんかの

こりり約と却くの舟舟は清く

を入道のまあわく物に

はか利ノ子細あそ

かなくよのあまはるま

秘

ととさふわふへんそし中右足はひ
奇と或言帝或表佛或公教 族
奇さしとひへしよのぬき埋深重
くぬし

松云は方とあくみりゆり公花鳥
大流をぬく

入道いんすしんりう

今ゆしてあはれやとらふかとの
らうりこ

あしうー致くゆまううぬと

これよりハ尾との公之年一ゆの浦を
ゆりまう二とひまうのふあうとさ

れとひゆきいせあ

^奥宿れくふなれお芳くれとたてふ
はふまぬせりれうい

私云治巴は方と引ケり強引いぬ
幸そ但朝芳よハゆりり何ふそあ
のまうにゆりあしあまあひはうしん

ううにこもりのあはれ

ほ 彼者也

因阿摩し再ハ辰とくりまらふと云

松は糸満抄にまがしめたりをり
て入道ノ發心こより我と仲道子
心成りまらふと云しりまらふ
多くとせり心成りしめをり
て力中よかわつて發心せしううの
おくりはれすまらふかえりゆふ

かゝり 明石とせ

のりてこれなるは

再の心さうまらふとせ

うまに本ハ兵舟に日心おのり
多ふ心おりのひりり
同りよ林といはれふ林といふ
乃林うとせ
武田石浦あはれとせのうと林とせ

三子今又移之海のうらとてうらとて母
らりもうまゝあり物なきはあつた
あつたといふ事あり舟の心

は分り祝トアリ

は
檣植日張馬漢武帝ノ使トシ檣
天漢ノ源ツ宛ニ孟津ト至リテ牛
女ニ逢テ飯リト事ヲ思フ詠ル
文選ニハ十年トアリ三十歳ヲ經テ
歸リトヤ

日本紀ニ仁徳天皇は此河國奈所
みぬしもうしあり本なるまら成み
て彼國人吾子身は本をたそ成る
舟を造りて南海へまゐりて難波
浦ノ舟をこれに船と号するとし
まゝそしあは查りハ幾り月ふと
ぬる日本紀トて伴婁諾号鯨子
とありまゝと書手船武多程石
椽梓舟以下多わわは清ノ孫

河より舟り舟りしも船河り又
伊武宗神意神天皇此世時
船氏造しみし舟り今時流舟船
安と昔子籠始る造舟り舟

松岡去と張騫う盛は舟り舟り
半し舟り舟りし舟り舟り舟り
舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り
舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り
舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り
舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り
舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り
舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り

杖端に流る舟り

舟り舟り舟り舟り

秘り舟り

舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り

舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り

舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り

舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り

舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り

舟り舟り舟り

秘大井の歌し

こころはあつた

秘大井の歌し

ありあけの地もせま

ゆふのさゆ大井れつら

こころをいれやうし

ひらけ事とひそく

是ははる昔は

とひそく

はらの地くみふらう

是は源より歌用を

らきあつた

とひそく

秘源の歌用

はらよあれ

まよき

はらよあれ 秘源

こころをいれやうし

源ノ大井ハたゞせん事ハ出テハ
てハいふこゝのさうくたゞハ海ゆり
トすまう一途ハ一り
中ノ物ニひけきまう行く

源ノをさくおハもみガめ名もさうり
ト物ニひれれれよくハまじりてハ
うぬされよるしあうとさうり
ハこゝみの琴トをさくや

すまう一途ハ一り

源ノ大井ハたゞせん事ハ出テハ
てハいふこゝのさうくたゞハ海ゆり
トすまう一途ハ一り

源ノをさくおハもみガめ名もさうり

ト物ニひれれれよくハまじりてハ
うぬされよるしあうとさうり
ハこゝみの琴トをさくや

源ノ大井ハたゞせん事ハ出テハ
てハいふこゝのさうくたゞハ海ゆり
トすまう一途ハ一り

源ノをさくおハもみガめ名もさうり
ト物ニひれれれよくハまじりてハ
うぬされよるしあうとさうり
ハこゝみの琴トをさくや

いさゝか〜

身とく〜ひたり〜

いさゝか風うぬ

秘

わろ方〜

〜河海説無益也

因〜

親王〜

何 明名卷〜

け奇余
同に書凡
りし書く
とあり是
け巻ノ巻

かよひて〜

〜

松云秘〜

力と〜

池ノ池〜

〜

〜

〜

〜

たふさー

^{烟堂}あふまろくくらのなはたきとひてゆつふ

とてはみはれりしとくしん

^秘あふまろくくらのなはたきとひてゆつふ

二と歳れきしある事といひりし

活まりきくしある事といひりし

乃つてまゝにしてよめるはあつて一と歳れ

事といひりしはあふまろくくらのなはたきとひてゆつふ

ゆふよのなはたきとひてゆつふ

^并秘に如けし書は

あふまろくくらのなはたきとひてゆつふ

世にたふさとて二と歳れといひりし

あふまろくくらのなはたきとひてゆつふ

あふまろくくらのなはたきとひてゆつふ

^花へさる

あふまろくくらのなはたきとひてゆつふ

武水説はあふまろくくらのなはたきとひてゆつふ

秘事といひりしはあふまろくくらのなはたきとひてゆつふ

うめふかうねえ

ふり物うねて

是ハ源のれ申延列也物なきく
あつとあつて心とせらつたを
うれ海成りふか

たし中くとりをま

源と又有るうねりも
いりまゝうね

女若みいへん

^秘 明名上れ乃むうのものを
あつとあつて心とせらつたを
まのまやもやうにせね

後に出るものなつてうねりも
あつとあつて心とせらつたを

うねりもあつて心とせらつたを

^弁 深瀬も堂もあつて心とせらつたを
のれも又極なるし所現のうね

けりしや 徳地花別は

是より世の源り事内とのまは

いふやをせしめて秘くまはり

うら深源れ水堂れとひんまはり

あふを何ししけゆしとこりまはり

とれまは

ふんしとひんまは

^秘ゆふとれまは

かりまはりらうき^本わ^長て

大井ノ幸く極くは深源了が

とらうまは

こゆれんまはりあせかぎりあまゆれ

ゆふとまはりひゆりんとて何し

いゆ入るまはりまはりまはり

まはりまはり

うらわんとしひあまはりまはり

^秘まはり大井と極ノ院とひんまはり

まはりまは

并

け同をせよと云やしゆく大井と極成
たかーやしゆくたのりよや極成
ハ極成院と云くふや
太秦寺邊西也

極成ハ極成寺也

何

崇峻天皇元年三月始建法興寺
之興寺也

水原抄云太秦寺ハ宇豆麻日本記

又葛野寺也葛野院葛野也

秦川勝建之某師佛也

且若茅之たうり也ノ中堂にて某師ノ
供養也

至し源流と云太秦左取懸満也

極成ハ極成川邊也

天曆八年八月廿日御記曰令元捕作

有太良ハ法湯乃茂樹ニ極成別當也

今極成ハ極成也

花

あり原河海々々河や

尻ハ極川ノをりりま何人ノ一極
まゝと一

かつされなれハ 此處より心
とれえさく何々何々

王質ト事

何々 何々のえいからあしみにす

世中一々

秘 何々と同し源ハ一ニ首ゆりまんと
何々

私をのえさくすし何々何々
といひり

之のゆゑにれいひきくゆゑに成りて
云々又漢書に記して是極院
成理なりとの時方并れ之もより
有りて書らるるなり

何
吾王質う石室山よりして一石
とてふゆゑに并何の有りて
三つとてふもなりと記れひき
くゆゑに成り

述異記曰吾王質伐木至信安郡石

室山見教童子因基与質一物如
棗核含く不飢局未終并柯柯
らる既帰を漢時人郡国志曰石室
山一名石橋山一名石室山晋中
朝時有王質者嘗入山伐木至石
室有童子教回彈琴而毅因放
斧柯聽く童子以一物与質状如
棗核含く不復飢遂漢小停并謂
俄頃童子諾曰汝未已久何遽不

去質應色而託柯已烟々

山公ゆめきま

きいたくくろあま山公のれ

花 け同ハし女春あまを何り望まれり

山公ゆめきまをくまらして何り

花はまよをくみり何りいふあま

山公ゆめきまをくまらして何り

くまらして何りいふあま

世一人いふ世一人あま

井 源氏大井へもり何り望まれり

あまをくみり源氏の何り

源の何り望まれりいふあま

くまらして何り

秘 花鳥況いふ源の何り望まれり

何り望まれりいふあま

いあーのわうさぬおらり物

秘 源乃すましくーいんさあー

れずりまかーいんさあー物

元も流るる并日

かまれぬれーるりまらりー

たーぬん地さー

秘 源ノ明るまらりれやうまらり

あーひあらりー

さーいぼくろひまらぬらり

あーい源のいさあらりのい

さひさひつふかろやことさあや

明るまらりーのさあらりー

あーらりあささあ

秘源ノ水

ささ

あさ

大なるれささ 秘々

時世まらり人のみかともあらり

夕雲ハ祖又たたたさるれ

あー時世れあらりあさより

人のむかひしむしれぬるしとて
とひらくまを

すくまふらんりひくらひま家よりけし

秘

伴現造文の時もひる祭行り又新物
うしえ入あふとてとて

花

ふとひく入のうめをいふし伴現造宮
はらとてとてとて
もた入のうめとてとて又新物
もてとて

物のうめとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて

人^ひらとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて

杖^ひをれとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて

花
乾
日
元

武院云是ハ伴房造交止口余ヨリを
ふれんやハウツカ

ら代々くもふふかの

秘帳考也

めれし乃々ウリ

源乃事ウリ

月しつれ物ウリ

けがれよの咽名ウリにぬ京れ後の

半しも成かウリ成

けふとむやれ

め乃しよ源の予て撥とのまを

あつめといとこしなふきて源ノ調

ないあふこウリ

二葉院の事れわんせ

もウリれなむあまふて治

平ノ名しハれまを

いしらわくしーいしらわくしー

秘 明るしーの洞

けくろよへふ取れあつり

井 大井の窟也

取しはつり河ふしーしー

ゆくろよへふ、標氏作つを又只介

し夜司まし如く多し西なるしー

世ましめと作つたし作らぬ

ろれか人よわろりあつしー

秘

植院(まじり)ふふふ人しー大井の窟

ろれか人よわろりあつしー

らろろみゆりの人しー

源ノ取しふふ取れ人あつしー

らんさいしふふあつしーあつたるあつた

くせまふ

先ハ大井の窟しー

そしるろりふふあつたるあつたる

お中書王此田路の窟しー

かさき河りてこれさハたうしりぬし
不那

是り不のさぬと源のこさ

うはた成とありしけくりきもあはる
さあり

た
むしり河ふそと石作し

はひあ成さハ昔の西教もさあり

か河ハ河いふれとハしり

れはあいさうたわりの物さ

あはりうしけくりきをそそ用事ら

執公の事年すふとそまれ網とれ

あり

さそと一そそびハしり物くはさ

しりさめれと

秘

源の河より物しそひてはあかも必

習者れは河さ物しうそは復とれ

くまくれあしりし海のさあは

とやまのれとハれと海り物し

源氏十箇年しめくしゆりのれま
心とめ治し事とさひのめくたうこ
もけとりりゆふ事と

松はもまをむすゆくさうさうの園
戸あましくれ事ゆへーさてとーハ
て経ハというれまきくさくあまの
ぬあくとゆふ換こーめうハまは
かあ時句しゆりてとあつ物と
あまハかゆあくとわうとつうを

あつあまといのゆへふせは海をま
まはあつ物しゆりてとあつ物と
くさふ物と

まよりのいどま成るるあつ物と
川とやすれ花れをうくさてはし
こて経りてハあ載とてあまはあま
損しゆふとみまきくさくゆてつら
ひのまハいり時名あまし物と
たむあつ物しゆりてとあつ物と

のなれとゆりも花とれきうーとて
さひおとせけるあや

花

け一版ノ心洞ぬかきこいふい物河海
よふ月時成多てりて成はくろよ
可みきくまゆりいこし葉しゆり
是ハ源氏ノ若海京ノ時事成り
まよもやさしも河一たのめやよ
くまへくまへくまへくまへくまへ
りーくまへくまへくまへくまへ

と女まのりゆせ
と女まのりゆせ

私何花あ抄とてよはー母はるり
養々大概しーりてゆりまーりて
河よふ月時を多て石れきよよ
天せしきまのりゆせくまへくまへ
くまへくまへくまへくまへくまへ
よーりて立石のやうよんはまのり
もゆりもやれまのり

心を白ふとくさるるなり

花をいれまゝにり明るまゝに書

しり心をゆりし事おとくまてな

まみりしひらしきと日月の輝

りしとらとまをかりありぬぬみ

ふらり

いしあゆみりよふ地いしとくさる

源ノ海

樹ツキハ男ハりくふ物ハ世ハ女ハり

若くはみずせう地いしとくさる

うきしとみとてまにのみ

石ハ心

何れれがふしりあれを

何國伽具カキのわが水ノ梵行

車れとるりしとるをいれ

ちりしとる

秘 國伽具カキのわが水ノ梵行

さひいそり

いふは——う——い——

^秘礼物にふし

4丁めりたにふりおろく

尾云ノ何ふ才丁也

何しう海くや——ふてしう海人の

^秘

うまを成しうく養ふてしうりのり

^秘

新世まつしうあさ物に成しうし

海くしやけ物成にけん何しうし

何しう只今尾云の世にふし成れ

えしうきしうふし出しうし

うま何しうしうしうし

いしうしうふし

何名のしうしう成しうし

事しうのしうし

えしうしうしうしうし

入るれ性ありふふふし

何し

丁を約めし世成

秘尾云ノ何し

よはく世に生れしハ

秘 松

行くしつものまきんはそり

世とてさしすしんはふまはひ

ととみ今頃のさとし作らぬ

つぎとぬ是しと命ありとも

何かまじうとさひまふとも

あつ後まふ公のう

秘

妹まのま

増丸のこころめくハ

何

とせ

みまこのふ何ははれあきて

あつとめひうよまふかひ

あつこのまをいふのこころ

奥 何 後

子世へんといひまてはれ

福さうちと一高ハ

あつれ福さうち

花はハ月ふの娘まの母と何ははれ
と早トしてはるのふくち一ハ腹
しりまといふといふ

秘 母とこと早下ノ初

物とこと早下ノ初

秘

中務文ノ初とこと早下ノ初
出ノ初とこと早下ノ初
とこと早下ノ初
ては小倉ノ初とこと早下ノ初
めとこと早下ノ初
あつとこと早下ノ初
後とこと早下ノ初

秘

中務文ノ初とこと早下ノ初
出ノ初とこと早下ノ初
とこと早下ノ初
ては小倉ノ初とこと早下ノ初
めとこと早下ノ初
あつとこと早下ノ初
後とこと早下ノ初

て居公母のつづけてさへあはれ
みまはり

元
兼明親王天延三年八月十三日
母の祭文あり後乃世々
も小倉のつづけては世々
此の河のあふや武記に
あり

松尾のつづけては世々
たしと云義なり去給

武所祝のつづけて祭文一返
時の平のつづけては世々
はあはれつづけては世々
をえさつづけては世々
行のつづけて祭文三返
つづけては世々のつづけては世々
秘
らなつづけては世々のつづけては世々
新
のつづけては世々のつづけては世々

え

うし海一いしはう死海一いし
らうしそしる紙うれきむた紙多
一昔まうりりあうしうれらう
ふふやうしうあ一あう
はあまう一人うりて争し紙もあ
やとのあふ一かあれ
秘 居公ノうんあハ昔のあふ一
しうまうしうあうしうあうり
む一のあうあう

秘

井ハハの
あふ一やあうりあふ

え

あうし一あうしあうし
あうあう

秘

まう右今あうあう
あうあう
あうあう
あうあう
あうあう

或りのあつた
今聖に云し事ごとくは
りしハ女もしては
あまハ西より
私と云ふこと
又と云ふこと
去りてハ
去りてハ

何れ行くところあり

何れ行くところあり
何れ行くところあり
何れ行くところあり
何れ行くところあり
何れ行くところあり

何れ行くところあり

何れ行くところあり

何れ行くところあり

何れ行くところあり

十四日 何れ行くところあり

わちさしゆ

ら 小畑又くは小畑くはあつたを

松必畑又くはまもくはあつたを

くは小畑くはあつたを

月のわたりまはうりあつた

大井里はうりあつた 秘日

あつたを

秘 明ふあつたを 雲陽くはあつたを

うのまゝのあつた

秘 後生はあつたを 琴く

秘 明ふあつたを 筆をうりあつた

うりあつた

かゝるあつた

源は琴くはあつたを

あつたを

秘 古今のあつたを 筆をうりあつた

けあつたを 筆をうりあつた

あつたを 秘日

優

此より一いふつぬとれさく
ふみぬんりなと一ちりな

花

四名事し云は移さうぬらう
河ひらんし女事ゆらり
うらうつぬとれさく一いふつぬ

延明

か〜しちり〜

松のゆ〜し移成〜

弁

休〜し〜

柳

高〜し〜

移〜し〜

同去け同ゆ〜

少〜の事〜

ち〜り〜

の部〜

風〜

い大井〜

う〜あり〜

ナキハシ

ハコトク

秘 源ノ心

二条院

秘 筆止れ養子あり

あり

のられたるえとほしきまゝに

策ノ西子ありけり

多ふは時り人の世

あり

又もこし

秘 明るしれぬと

或明るしれぬと

是ありありは

ありありあり

す

たふし

秘 世ありありあり

もつぎく...あまにこりひのま
いふくわつふま

源ノ妹者といふいふ

みふらひわりてくせらよるひたり

噴石ノ血中あり一入はり

よあふく...の血をゆのま

地をき

又乃白ハ赤ク...塊ありハれハ

け丹大井...りましくいふん

大津

う...のめんよ...に...

源ノ桂ノ...おつ...

てくく...はひ...

う...と...

大井ノ...と...

い...と...

是...り...

又...ハ...

物れをうとつうもあつたこれ物
のうまきあつた人のうあつた
うまきあつたあつたあつた
うまきあつたあつたあつた

けんくまのよかえれてあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

源大綱

いし軍と成りや

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

けんくまのよかえれてあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

詞をてん約きハえと集ノ方そハ
れひゆり

けふふさひ多しつる

^秘 けふふさひ多しつる

明もあつとふさひ多しつる

も今より此味をさつる

かんとつる

わらわて成るういそふ比多し

そひまハ

張るは成るういそふ比多し

まふとちまふ

け井の終る 源也

け井の終る 源也

そつれしものまはつる

^秘 明もこれ事なるもの

或源氏いづくもあつとふさひ多し

ゆりく又いづくもあつとふさひ多し

まふとちまふ 今葉

いつれもわらうものよわらうはしづか
よしの花のほつとほつとほつとほつと
足跡をたのしみよわらうはしづか
娘まめれとわらうはしづか
いふはしづかを何とてしづか
うとしづかほつとほつとほつと
よしの花のほつとほつとほつと
よしの花のほつとほつとほつと
よしの花のほつとほつとほつと

一

人こころもせよ

或人こころもせよ
わらうはしづか

松人こころもせよ

わらうはしづか

わらうはしづか
秘わらうはしづか

女房よわらうはしづか

明るわらうはしづか

ゆく物さしづか

明石と心

何れりすすめしと

とらうめしとふせ

人くもかこりしとくま

明をれをきくかきよとくへの

せしとくかんし

本下よるしとくし

明石とくかんし

多きやふいふきりひみこからとくし

ししかりぬし

^秘 明石とく

まふれといふしとく不足きとく

と海のりしとく

とくしとくかんし

^秘 まふしとくかんしとくせしとく

いふしとくかんしとく

海のりしとく

いふしとくかんし

响ろやうとてきしつり源ノか
そくふきさるまやうのみえは
いふこれかよむあひまをく
かくてしつとれくしつ

^秘源ノ交儀しつらあひまをさつり
あれしつらなふみけしつら

やまき子地し

うみこをさつりしつら
ゆあしつらあひまをさつりしつら

てきり

^秘 ^松

かとれあひまをさつりしつら
けんハ作子介らニ男紀作守り

きん右近お監しつら
しつらあひまのつらあひまをさつりしつら

^秘

なふあはあしつら
解官せしつら
うきあはあしつら

良清の事

松良清は清和天皇の御孫なりと云ひあや
まひり多し為ししう良清の身を
はかしの巻に記されし時た
依し阿達は良清の依し
推古天皇十一年十二月始に冠位
十二年壬辰正月始賜冠位於良清
有善是叙位始
天武天皇十一年十月男女始

依皇初著保少冠

依の事

人々を以てし

花 元弘より良清の實名より女房より

子河

秘 内此人のけ紙より事

こころの物事しきりしゆりぬし

并 物事の耐ノ御し

こころ事たりしきりしゆりぬし

しきりぬしきりぬし

しきりぬし

しきりぬしきりぬし

初 明るりしきりぬし

しきりぬしきりぬし

しきりぬしきりぬし

しきりぬし

しきりぬしきりぬし

しきりぬしきりぬし

しきりぬしきりぬし

しきりぬしきりぬし

しきりぬしきりぬし

しきりぬしきりぬし

しきりぬし

しきりぬしきりぬし

よ川流のいすこよろしん

酒造

九字れららのこつひあきく
るこれゆへいひなきみり
志ゆうこれ八明るくあ
乃包く

花
是の女房れは答く八字く
大井ノ里ノ山く 祇方あは
丁ぬわをくれりーの鴻く

れそりゆりきふとさ
とゆりーーかりはあ
志まぬ人のあふーと
まー云く

松

雲れ八字く月け大井と
て明石乃鴻くまあ
ゆーさふく

舟

雲乃幸く十里のさ
流くれあしあ

松とむし〜れとハ津波〜こと心入母
せしり心くなとあは〜音なま
ぬ人の間をふれり〜と女り〜
ふり〜川あは海

妻と母〜のし

^何誰を〜と志ぶ人よせんそらゆえ
松とむし〜のな〜れ〜母
^松昔人女と約〜ゆふよ母〜
ぬ人の間あ〜り〜約り女〜

わ〜人と

^何今までよとあ〜人〜
そのま〜ゆ〜年り〜

^松ら〜竹〜や〜ま〜と〜ひ〜あ〜れ〜も〜わ〜り
^松幸のゆ〜と〜れ〜あ〜る〜女り〜ひ〜わ〜る
さゆ〜ゆ〜り〜あ〜ふ〜ら〜り〜あ〜れ〜も〜明〜石
〜〜浮院の〜ひ〜白物〜只〜八冠〜
て〜ら〜る〜や〜ら〜ら〜あ〜る〜あ〜る〜と〜枝
浦あ〜〜〜ら〜果〜あ〜〜〜と〜は〜ひ〜

さひもふふと

花鳥流るる清しとくはくは清い流る

いかりりー若く

井

こよねやとハすくまふふのし我と

さひあれあーととハすぬあー

あーの浮流のさう家と何りさう

かまや女房又清くれあそあそ

すぬーとさひあーとさひあー

合て家さう流るひさるやのむもや

た安耐

紀伊守

河さぬち紀伊守

才良清しとくはくは清い流る

子や良清く清るさうさひさうさう

あーさうさうとと似たりとてら流

ししと兼不用く是はゆきいの針流

是ハ又良清く清くさうさうさう

やいさうのうらうらうらてはせあーぬ

屋さうの道の女房を家めむーさう

あーさうさうさうさうさうさう

たやんより軍としはつめとより
ハ良清の女房より詞也

私花ノ美の月ノ葉し秘弁の
美其を解ししこ此柳之足は
人の心をいり耐紀伊守より
良清の女房より此同答の女
房とのみいひより一美の詞也
くきてはしるは行やといはれり
乃のちよりよの良清の女

とよよりよのひをよふ人とい
ゆきいもわらひさゆよのひて同
美紙の系かきいん中よりよの
しるよしおらやゆりまじら
とよよりよのひをよふとよ
やうや

いましつゝ

秘

うらまをばやぶ

うあしうひあさ

いしをかりくさくはむし

粧あふし

り粧れん事あり物く

さゆ也

をひらう

さなとよさゆ

車れきりにん中ゆき清

花

け二人系図み

弁秘図木

車ハきりりり糸物

れ方々のふし後み

あふあふあふ人

西人

いしうら

秘
源ノ祠

く秘の月よくらやう

れじく秘のくた河

乃中將き未

清きと秘のつよめく

ふれあ秘く秘はほく

ちの秘めく秘あれ秘い秘う秘は秘

ふれ清秘の秘ま秘は秘り秘ら秘ふ

君秘の秘い秘あ秘と秘の秘葉秘と秘の秘い秘

ぬ秘たり秘う秘

野秘へのま秘り秘う秘り秘に

お秘む秘の後秘は秘の秘葉秘と秘く秘は秘と秘は秘

か秘あ秘の秘お秘片秘の秘こ秘た秘う秘う秘く秘ひ

袖秘は秘お秘り秘小秘舞秘を秘し秘て秘て秘ら秘と秘

ふれ秘う秘あ秘は秘あ秘め秘く秘か秘う秘り秘は秘海秘

風秘流秘れ秘舞秘く

き秘は秘れ秘う秘う秘あ秘く秘

屋秘上秘人秘と秘その秘大秘井秘へ秘身秘り秘又秘極秘境秘よ

ゆ秘き秘し秘ま秘ら秘あ秘と秘ほ秘ま秘は秘う秘ま秘い秘め秘ひ

くれて又桂院へねすうふさかふ六六打
り多之うりねしんしんていわり
ありー

あふらるりこわーいさねさき

何 御合の事へ飯ノ谷

松 噪

いひとせりーいふふねれさうり
務嗣へ何まれさうつりいありれ
うすともひおまじ

こぞりさばーり

井 小鳥をい萩の枝まといけふこい

何 海まこつーくしてさうり

何 小鳥枝ま教丸を母の志さ城く

さみくふまげりーいかそまいうさ

てけりさうりつてま何さうりありま

まをいふさこまをいふまをいふま

かさうい萩房菊の枝まをけりや

延嘉十一年十月十八日辰新葉寮人

お清涼殿のお奏舞侍中納言の者名は
若小鳥菊枝立湯のお奏の云船本氏有
をし清観の西宮 花鳥同枝之

宇治室花日記に永観年中朱雀
院へ多てしつる小鳥新枝一と他
雲雀めをとの尾めく鼻を切
るしくけりといふ西園法師と
いふれ草り枝をくすすとい
義広紙しく本枝とくみり

私云三つりきり
けしるは本りきり

親行

あひてきぬく小同答りきり
の原抄めと枝親行又草葉枝
れ又親しく古今枝の奏も
めんとしけれきぬりし人枝
くみよ又古枝奇しきりし
枝きりし子すまのすまを
るゆり若らぬのより源重之
の枝ありえはりきり

鳥の穴もやあそく人け物流中も
夕氣ノ枝を府こすくありありあり
ふましく女郎花とてこ夏の枝とあり
葉ちわの菊枝一枝ありてあけ^{ひら}けり
わりしといひまきり枝れ西田兼清せき
いときれう後う枝さうのふふ朝
糸の枝しう連あをてて観りよ
たらしありてかしく鑑余うし流を
あてまきりといふ事いあ人同答れ

埋み登るやあして葉枝あり
云きゆくよあううはあうくわ
流りいをのつうまをあま事
けりといふも約ハち鳥歎事本
れ名をとまふ枝とてすしその事も
実るまに半しあふといふあうまう
れ草の枝を作牛り唐人の約あり
折枝なるし十日菊も作まり其例
不て猪斗り而西島しこまをと取せ能

おろしうぶ夜のさぬぬり

たぢしあうひ

ひさし物ひんころんしりあえと

うさしきぬにたれさぬよるにせり

あえとりの云筆れとこもぬり

たひひしよあひより潤子

林あまの平潤ぬり

屋上人ゆみ人

ひんくいの林岸しりたてぬり

ぬみぶ人くまり

うまゆりうひさるん

これよりけ人くれきりぬり

といひのぬぬりぬりけ人く

ぬみぶ人く

はわそひわりきさかは井てす

これハ林岸しりたてぬり

きよのさ白のぬ物しあわぬぬり

物文云う白物と事一 ぬ物と事一

非方遠ハ五日六日連續ナルニ也
九條右衛門お託天慶七年正月七日
庚辰

右政大臣長十有月廿八日至時合ハ合ハ白
因門物忘ハ何ハ時至及奉事シ君守白物忘
元少ハ何レ之物

武祝云此物忘ハ甲乙ハ是レ之物忘ハ伊勢
佐良八幡佐良賀ハ佐良佐良各ハ二日合ハ
ケハ何レ也

并
きハ下ハ何事一ハきハ一ハ日ハれハ
つハ一ハ何事也

想
たハ此ハ物忘ハレ何事也
とハ一ハ日ハれハ何事也
第ハ一ハ卷ハ也

何ハ一ハ日ハれハ何事也
是ハ此ハ物忘ハレ何事也
世ハ一ハ日ハれハ何事也
一ハ日ハれハ何事也

和定あつて桂院みゆ運海坊
人ノ養一あり一してはせり
うこありて皆しそにまわりの
はつひハ龍人の弁ありりり

小位ノ職まじく

秘 及上人サ上人といふうらありり

冷山製衣 月のとじ川のともらるる里おれはる此

うまをいれしありりり

秘 桂院と桂ノ里に小舟にてありり

白ハれしうふ月とすしてありり
毎一ししありりりりりりりり
之後ししありりりりりりり

何 安天海云桂苑八月七月仲見
人桂樹わり其初出河他人足見
漸成形後桂樹生

兼名苑云月中有河より有桂
樹高五百ふ

うまをいれしありりり

勅書ノ河多ク

カニヨリカニ

源ノもてさや一まじ海如ク

ノの河多ク

今夜の事

下ノ河多ク

物多ク

桑奥のゆ

ヨキ物と

秘 久を物引出物と

花 儲物ハ被物カキモノと

用意せよ

ヨリ河

ヨリ河

ヨリ河

此は

源ノ也

ヨリ河

女れはうきく一さり

ら
うかの物うりうりれ巻之四り
れくえーくまうりけりあ事しを
足母右の母のけ右ち将之
くうーいぬましのけくハれくろ
川のまうりまきうけふおまら
ゆりしのけりし右世がわあうり
よれあうりれあまのりーけり
のうふうせりしわ世けり

いふ事うきひりかまはるめ
さいまをまこの中持ますこれけ
かしけりてうきまうてけりま
かしたわおえーうぬわといと
うーうーいぬまはあやう
けりのをらういひとまひら
ぬの女れはうきく一さりうき
いぬれーうりわといとまめ
て何そひあうーてつてあてうり給

うまねーやーありまねけーせく
うまね

^{性原}久々これえまらうさー若ねーして物なり
しとれぬ山あり

^秘家身丸連因あふさぬハ考とくれ
さぬし新筆かともといふこと

^舟舟ノ洞よんえり
舟ノ洞よんえり

^草新筆しとらささし始んて人聞へー

^瓦草子ノ地ちりー
久々これえをみれけしよハ客え
とまらさふんありし伊場久
れ中よたひありしとあるとるよ
ゆきか付て桑中まのとりせねまら
時乃此也よよらあふさし田
つひの也よよらあふさし田
あふあわ

并 奇に朝夕習とくれぬとわまひの
幸かたし何の光あふくしと云也
或うばうれまきのとまうあんと何ん
りありの成るまうく月あまをまうを
花れしあうくささあまいと云公の部
とさいぶゆしあまはけり幸も何事
し云公とあうくくふく其公奇の
あうくくめと幸もくらまうく
活件しハ舎人くありの初

中よれひくあしうらうく

何右
えくこれ中のあひく家羅まれえと
れくああひのむつた家 伊勢

ええめうあうくまうしあああまむ

何 他まてあうしあうくあうく
れうれくあひいあうく

秘
明るうくして奇を浦くあひ
事く

并
川ああくうらまて

或明るまで ありしみか 何れも地
れ海のありれえのこはなまはく
すきふうれ月と源ノろふあす
もれありれるりきひなれ

^秘 弟子の地

かくのほりてあはよくそまひ
やうてのありれまく一入出もん
くうりううくあまのまひいそ

^便 乃さひさきいもまくみん

あうりううくあまのまひいそ
あうりううくあまのまひいそ

^秘 西乳のらうくさやうれあはく 昇日

天地とも裏ま入るはく

^氣 明るる春はあまのまひいそ

あまのまひいそと源氏れまみあま
まうりてあうれのほりあはく
月とあまのまひいそ

乃中

しんまにさつりしつらひしつねにけり
すみいけふもそのとをうたふ

秘

明るもさうしつらひに浮をえ
しつとねしつらひ

私狂や玄姫佳月たりやとくえ

あふ弁とさうしつらひつらひの
しつとねしつらひつらひつらひ
人ありつらひ 弁狂とさうしつらひ

たふ弁け人のほねありとあり

何

い弁りしえ源氏と旅の時鴻勝
鼓とさうしつらひつらひつらひ
つらひつらひつらひつらひつらひ
ありつらひつらひつらひつらひ

死

い弁源氏と旅の時鴻勝鼓とさうしつらひ
つらひつらひつらひつらひつらひ
つらひつらひつらひつらひつらひ
つらひつらひつらひつらひつらひ
つらひつらひつらひつらひつらひ
つらひつらひつらひつらひつらひ

てみ可筆みなりゆりいよよ
細てけししと昇をせしる矣
弁ありくくくくくくくくく
ゆり又一本いん大弁しゆり
流しとがし一丸鳥よ河海成徳せ
心むて我

秘

ち大弁
雲れ上のすみけんとき
若くをわくしあし

瓦

いばきの若く鹿ノ若くとりな院

崩ゆり事とよあゆし

弁

丸鳥よな院れ事成りありとい

鹿ノ若く心ゆりえ

秘

弟ゆりよな鹿ノ若くいもくくの
心ありを人あけいあ院の事と
いひいしあつや

私けち大弁な院の恩寵を記せ
事しとらまこくくくくくくく
と深きりぬくくくくくくくくく

ほこあ院れいせとありて
とひりあり奇妙くきくい
ふ似合あふこころ

心くみあやこあめまこと

^秘あの子地こ

うらまひまりきふ

群後名奥のまき一風と得る
席のさゆあ

千とせとんこいゆり

源のゆありさゆ成りて

とひくえとくらぬくまこと

^秘はあこれまきの詞まのえさく

め活らん母やまらと成もあふ

とらまをうり常山の蛇撰あり

^何あつハクととあつれをのえの

くはくあをきくありまふ

私えはあタリなはス

まふくくくくくくく

一車あせひけりして又の口ありて
物とときかしくみろきく

大井よりりてせしきくふふふ
の物成管経せし人みろきく物
と清つるこれ名くはれり物のお

近清舎人の清力と清玉れ人の清
下役として清玉れ其物とまら
あこれ物れゆへは掌事と神玉の
さいより小前張早朝舎深其物人

七起舞け同内苑寮官人祝足
絹拂人牛腰

北山大将儀云補物節事定物
節事中将相共、於陣所定
補足成府生養付各上中將後令
後人後上口下考、近例、右無事、花
く、後得志付苑人

次中将執事定書番長以下下
給将曹依召立、稱唯進立、再、清、在
将或上里亭定し、今、葉物節と云ハ

と清今人の中み東松より道し
あり物成お前と梅すそ中書
本有生土生しこれよりて去日
質及紫ノ使ノお村を往くを東人
召具て於社取来子後河舞子
舞下し之陪遊ハ有生加陪遊も道
清ノ官人之陪遊ハ和界 弟土
後し賄り相横ノ大將ノ還河家
の時とみかきも松月お前後

喜外并来ノ人 ミナタラト
今人れをつとむふこそれ中
番 ナガ 中ハ近中後番と云ふ
と外ハ中と云ふいひく中日書
ぬを来しといふ

并
花鳥云今葉物前と云ふハ清の
今人の中ハ東松と道し
物成物前と補と
物前之花鳥と云ふ

秘

うしろまよれとてこれあうひて

ほろれにふやれよふいよふいふり

うりんあいらりうりん草いりりり

汁ま其約

めみちるる活みく

笑あかこをぬくこと松人への

縁を物のあるところのよめりうらぶ

知

若井井井の物くそく

極より多くうらせまよを大井の

里へのよめりくそく

大井と極との一里うらりへあめ

くそく

かこうこをこいかにし

極よりうらりうらりあめよめりくそく

大井へつらうらりあめよめりくそく

これよめりくそく 二巻院へ

くそくの西物くそりあめ

大升れ辨りし海心あるいやう
はやくこころをさ

いぬをえし一舟こつ流ハ

おぼ二言約きんとほふゆくす

あしゆしるるくはあれは心成りて

乃所よ深し視し

これとれとのいふ

くちあひのきりて極めく酒喜

れしよ辨りて入るはあまりては

てれぬとのいふれく

まいの年いふれ 秘 出づるノ事

ふしゝぬやういふ

筆のうらとまぬさぬなり紙深し

しゝぬさぬよんくし流るり流る

あすゝひなゝぬかしをたけりてあ

もわふさかといふあり

私 明らとすしすくまなむしは

くぬり時ハ人々くますゝひな

ぬし受り源ノ名中ノ女御の御
に行をりつゝいぢさひのりつゝいぢさひ
ノ地あり

^秘源ノ河之日能あふ事しと流すり
りハ河之集しと流る事といふ地
流あふ事しと流る事といふ事
松を源ノ河にしと流る事といふ事
流あふ事しと流る事といふ事
流あふ事しと流る事といふ事

^何流あふ事しと流る事といふ事
流あふ事しと流る事といふ事

松之流は河にしと流る事といふ事
流あふ事しと流る事といふ事
流あふ事しと流る事といふ事
流あふ事しと流る事といふ事
流あふ事しと流る事といふ事
流あふ事しと流る事といふ事

秘大井へのみし

まはれぬやうに

はましノそとにへんね

こあられとあつこゝろ

はましはつぬ書房れとあつこゝろ

とまゝとらうーん

秘はましと

それ後ハこのかたひ

はつこゝろ世帯めと

まゝとまのいん

何りつらぬり

大井のり

こ行やとらうーん

まゝとらうーん

まゝとらうーん

まゝとらうーん

私原ノ海をまゝとらうーん

みまふし

こまゝとらうーん

源のやりく 年もめでたき哉の
あせ

とくおとのけりす

源ノさひごうてつこいあつじあ
さゆい

あしひろくまき

葉ハもせぬきけりぬ

女まらぬあやうらふ哉

葉のみやりとせぬやういへり

そゆい

せあうらうらうらうらうら

^秘葉の上のふとつりけり

松源ノ親とらぬやうめしてけり

すあといこゆい

うらうらうらうらうらうら

源ノさゆい

あ

葉れそとく源のさゆい

由とハツリシハアミヤトクニクハ

秘 源ノ河ノ蝦蟇をえりし事

おろしんやとてはくしりね海ろ紙

母さみの位まよりと源れりて

たあしゆはさひあくして

子はきこむつとの話として源

筆し心をひりあして養育

て移すとのまじ

うたてしんやとてはひんや

何とありとも筆のを改りしと

さしめりとの話

ひふれらりよひりて

秘 三筆しとてしめりて 井日

何 次生蛭子 雖已三歳而脚尚不立

旧夏本記

うろしんやとてはくしりね海ろ紙

おろしんやとてはくしりね海ろ紙

明らねまの三筆しとてはひんや

朝露
派蛭子

けしむらひのまはるゝ

は巻をれおほまをとりおほれ

業あうれんうれゝらうゝ

少く或し葉たゝあゝ人のうゝ

たゝあゝあゝあゝあゝ

いふをわあうがきりひゝ

秘 若者裳事

きりひゝあゝあゝあゝ

いひひひひひひひ

あゝあゝあゝあゝ

裳若事

松若袴事

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

秘若裳事

あゝあゝあゝ

業上ノ用之衣さうぬ事致とさうせ

そりねーまゆねれへふて〜残ん
ま〜めやうふまへらつたあつてあ
〜〜〜あ〜いふま〜あ
れま〜い〜あ〜い〜あ〜い
はるひゆりあんひふのこれよりな
らふゆふうけい〜い〜い〜い
〜〜〜い〜い〜い〜い
あひね〜い〜い〜い〜い
はあ〜い〜い〜い〜い

秘

よとつすうらうらあ〜い〜い
〜〜〜あ〜い〜い〜い
あ〜い〜い〜い〜い
えん〜い〜い〜い〜い
あ〜い〜い〜い〜い

ひあ大畧目

い〜い〜い〜い〜い
秘
かのね〜い〜い〜い〜い
或中後けあ〜い〜い〜い〜い

句とらりていそなきふしとて
らこころりあり 秘弟子地

私業れをいとりの一は紙書る
ゆは案ノ様様を成りてさうら
こひまを

いふせまう 秘源の心

むつやとゆしとわたりし心

娘を成るるこひりてあつたな
こころりありと心成るるこころ

こひこゝに紙を

こころりありし心

大井(出)せよとれおこ

月よぬこひをりれ

まろしあつて心とれ十や六百

日れ念佛ありしの日なり

こころりありし心とれ十や六百
あつて心とれ十や六百
あつて心とれ十や六百
あつて心とれ十や六百

天何んをぬゆゑあつたよれ

れきりやあつたよれ

花
ふれこれらきりよはく地まふ

やうききしあはひのあはれ

けしあはひのあはれ

秘
皇合はあはれきりよ

よひあはれきりよ

にきりよ

明をれしれ身よあはれのあはれ

うきあはれきりよあはれ

ましあはれきりよあはれ

あはれきりよあはれ

あはれきりよあはれ

あはれきりよ





